科学を支え、
未来へつなぐ

科学技術振興機構報　第 1887 号

2026（令和 8）年 11 月 20 日
科学技術振興機構（JST）

「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」2026 年度募集「A・B・C コース（第 3 回）」の交流計画の採択について

JST（理事長 橋本 和仁）は、長期的視点に立って世界の優秀な若者を日本に短期招へいし、最先端の科学技術や文化に触れる機会を提供するとともに、我が国の青少年との交流を促進するため、「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」を推進しています。このたび、2026 年度 A・B・C コース（第 3 回）の募集により採択する交流計画を決定しました。

A・B・C コースには、2026 年 6 月 23 日（火）から 9 月 16 日（水）までの募集期間に合計 109 件の申請がありました。これらの申請について、国際青少年サイエンス交流事業選考委員会（委員長：渡邉 聡 東京大学 大学院工学系研究科 教授）による審議を経て、44 件を採択しました。採択した交流計画における日本側機関の内訳は、大学・高校が 35 校、大学共同利用機関法人が 1 機関です。

事業や採択した交流計画の詳細は、以下のウェブサイトをご参照ください。
https://ssp.jst.go.jp/

＜お問い合わせ＞

＜事業に関すること＞
科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部
金子 恵美（カネコ エミ）
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
Tel：03-5214-8997　Fax：03-5214-8445
E-mail：ssp.press@jst.go.jp

＜報道に関すること＞
科学技術振興機構 広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
Tel：03-5214-8404　Fax：03-5214-8432
E-mail：jstkoho@jst.go.jp

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。